



QFN通信

Qshu Forest Network News

NPO九州森林ネットワーク

通信紙の発刊にあたって 理事長 佐藤宣子

九州森林ネットワーク会員の皆様。こんにちは。

この度、会員向け情報ニュース「QFN通信」を創刊しましたので、お届けします。当面、年2～3回を目標に発行していく予定です。

昨年9月に当会が設立され、5月現在、会員数が90名を超え、徐々に輪が広がってきました。この間、11月にホームページを開設し、1月には設立記念の九州森林フォーラムを宮崎県諸塚村で実施しました。本創刊号では、それらの活動報告の他、HPのブログ内での討論（激論？）、今後の活動計画等についてお知らせしています。

当会は「九州のまちと山々を結ぶ」という、情報交流と発信によって、貴重な地域の森林資源を活かす21世紀のまちづくりと森づくりに寄与することを目的としています。そのためには、一人一人の会員の皆さんが関わっておられる九州各地でのイベント情報や意見を持ち寄ることがとても大切です。小さな情報でもかまいませんので、気軽にHPへの書き込みや事務局にfax等でお知らせ頂くように、お願い致します。この通信で各地の情報、会員意見として掲載していきます。

また、来る10月28～29日には第2回総会も兼ねて、長崎市で第4回九州森林フォーラムを開催する予定にしております。情報ネットワーク時代でありHPが活動の重要なツールになっていますが、実際に顔を合わせ、語り合い、お酒を酌み交わし、ついでに楽器演奏まで出る当会フォーラムの意義は代え難いものです。

長崎でお会いできることを楽しみにしております。



ネットワークキャラクター
「(仮称)やまちゃんず」

愛称募集中！

2005年6月 創刊号

発行日 2005. 6. 1

<発行>
NPO九州森林ネットワーク
本部：大分・上津江町
<編集責任>
宮崎・諸塚オフィス

目次

九州森林フォーラムの報告	2
Blogぶろぐブログ	4
会員Web訪問①	5
NEWS	6
ネットワークオフィス名簿 会員募集案内	7
気になる木になる情報	8

第3回九州森林フォーラム開催

「第3回九州森林フォーラム」は、「森林資源の有効活用～山と街をつなぐ手法」をテーマに、諸塚村で開催されました。

今回のフォーラムは、「NPO法人九州森林ネットワーク」の設立と、諸塚村がFSC(森林管理協議会)森林認証を取得したことを記念して開催されました。

東京大学名誉教授の有馬孝禮氏の基調講演のほか、九州各地の取り組み事例報告など非常に貴重な情報が得られました。

九州だけではなく、遠くは北海道や岩手からも参加されるなど、延べ104名の参加者があり、大成功でした。この動きが九州各地はもとより、全国へと広がるきっかけになればと思います。



フォーラムの会場

1日目 1月20日(金)

■バイオマスフォーラム

「諸塚村バイオマス検討会」の共催で、木質バイオマスについて、UFJ総研の牧大介氏の講演がありました。

森林資源の有効活用策として期待される木質バイオマスエネルギーを取り巻く現況報告がなされ、さらに森林認証とバイオマスエネルギーの組み合わせの可能性などに関する講話が行なわれました。

■FSC森林認証の取得について

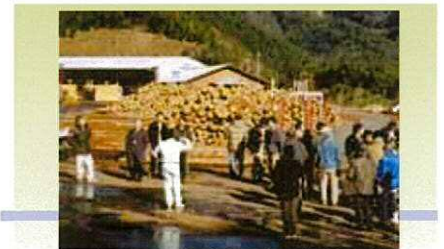
森林認証制度は、健全で適正な管理をされた森林を第三者が認証し、そこから生産される木材等森林資源を、認証ラベル(エコマーク)をつけることで、ユーザーが積極的に活用し、みんなで地球環境を守ろうとするものです。今回、諸塚村では村ぐるみのグループ認証を取得しましたが、その取得の背景や審査時の状況、今後の可能性や課題などについて、諸塚村森林認証研究会事務局佐藤より報告が行われました。

■現地研修

*耳川広域森林組合諸塚支所木材加工センター:COC認証(流通管理の認証)を取得した木材加工センターを見学し、加工・流通の内容について、黒木工場長より説明。

*産直住宅モデルハウスの見学:諸塚の木材を利用した「産直住宅」のモデルハウスの見学。

*木材生産現場見学:諸塚村産直住宅用材となる樹齢80年生スギ材の葉枯らし材生産現場を見学。



現場見学

2日目 1月21日(土)

■記念講演

宮崎県木材利用技術センター有馬孝禮所長をお招きして、「木材資源の活用策について—地球環境保全と居住環境」と題し、基調講演をしていただきました。木材生産における炭素貯蔵効果、資源の循環、地域木材資源利用の連携など、豊富な内容でのお話しとなりました。

特に、木の特製を理解し、品質情報を開示することなど連携によって、木が「何年もつか」ではなく、「何年もたせるか」かを考えるべきであることなど、木材資源の有効活用への重要な指針をいただきました。

■事例発表

「地域の資源の生かし方」をテーマに3件の事例発表が行われました。

*「小国ポイント～地域通貨の実験」

熊本県小国町木魂館館長 江藤訓重氏

小国町のグリーンツーリズムで、ワーキングホリデーと地域通貨「小国ポイント」の組み合わせで、都市と林業がうまく連携する実験の状況報告がありました。



基調講演

*「持続可能な木材の供給とトレーサビリティ」

大分県上津江村(株)トライウッド原田公成氏

津江杉としてのブランド化に関する、トレーサビリティの取り組み内容などについての発表が行われました。

*「林間放牧牛～山林資源で健康牛」

諸塚村産業課甲斐光治氏

諸塚村におけるこれまでの林内放牧の取り組み状況と、林蓄複合システムとしての育林放牧の効果や課題等について発表が行われました。

参加者のコメント

第3回森林フォーラムin諸塚の参加者、講演者の皆さん、そして準備をして頂いた諸塚村森林認証研究会の皆さん、大変お世話になりました。おかげさまで、九州森林ネットワークの設立記念のフォーラムとして、とても有意義なものになりました。

私は、次の3つがとても印象的でした。

一つは、諸塚村が九州で初めてFSCの森林認証を得たことの意義です。森林認証は資源的・生態的・社会的に持続的な管理がなされている森林を第三者機関が認証し、産出された木材にラベリングをして消費者が選択しうる制度です。諸塚村内での森林環境保全意識の高まりと認証材の販売など、今後の諸塚村の地域戦略のツールとして大きな意義と可能性があると思いました。森林認証制度は世界的には90年代後半から、日本では2000年の速水林業取得以降、広がってきました。そうした中で九州で取得事業者がでてきたことは、取得した地域だけへの効果に留まらず、九州全体への適切な森林管理に対する意識向上という点で波及効果もあるのではないかと、あるいは当ネットワークの活動にも活かせるように、受け止めたいと思います。その点、諸塚村での取得についてオープンに語って頂き、感謝申し上げます。

二つ目は、有馬先生の講演ででてきた、「そこそこの」（過剰な要求をしないという意味で）十分満足できる家をきちんと造るために求められると指摘された事項です。木のことを知り、価格も含めて関係者が情報を公開・共有して、山が成り立つような仕組み作りについて指摘されました。ネットワークの会員には、山の関係者から流通・建築関係の方々がいっぱいいますので、取り組めるし、そのためには今後、少し詰めた議論が必要です。次回フォーラム（長崎で10月頃開催予定）では、この点を意識した企画を期待したい。

三つ目は、懇親会がとても盛り上がったことです。諸塚村の方々的心暖まるおもてなし、フレンドリーな参加者のトークに加えて、村田さん演奏のケーナの音が山里の雰囲気と参加者皆さんの心意気にとってもマッチしていて、宴が盛り上がりました。来年は村田さんと合奏できるように・・・乞うご期待！

佐藤宣子（九州森林ネットワーク理事長 九州大学）

参加者コメント

横浜育ちでそのままムラ組織のない北海道に行ってしまったため、なかなか理解できずにいました。しかし、今回集落までお邪魔して皆さんの話をうかがい、改めて様々な集落組織の人のつながりの大切さというものを実感することができました。森林認証という最も先進的な取り組みが、集落を基礎として可能となったということが特に私には驚きでした。これまでのFSC森林認証はどちらかというと意識ある市民の自発性に依拠しているというイメージがありました。しかし、本当に森林認証を広げ力強い活動にいくために集落の人のつながりが重要であることを認識し、ここからFSC森林認証の新しい可能性が生まれてくるのではとも思いました。

山村＝「保守的」と考えがちでしたが、条件が厳しいがゆ

九州森林フォーラムで、初めて古民家に泊まりました。“古”民家といっても、あんなつくりの家は初めてで、新鮮でした。

昔からの建物や文化は、それらに触れたことのない人にとっては目新しいものですね。SFC認証などの“本当に新しいもの”と、“古くて新しいもの”の両方を生かす諸塚村は魅力的だと思いました。新しい発見をしに、諸塚村にまた行きますので（何時間もかかるけど！）よろしくお願ひします。

丸山沙織（九州森林ネットワーク事務局）

九州森林ネットワークの皆様、また森林フォーラムの関係者の皆様お疲れ様でした。

当方にとっては、大変有意義な講演会・実例報告で多くの刺激を受けました。特に、諸塚村の森林認証の考え方や実行力には大変感動しました。

森林認証については、誰もが考えつくことではありますが、それを実行に移すことはなかなか難しいことです。ですが、今回の集いをキッカケとして、諸塚村の実行力を見習いながら、ぜひ自分の暮らしている地域にも実践したいと考えています。

また、有馬先生のお話には、環境論も森林論も建築技術論もすべて、互いの共通言語をもった上で議論することの大切さを、再認識しました。

三浦逸朗（九州森林ネットワーク理事）

ここ数年の環境をめぐる状況が、都市生活者にとって非常に流動的で見えにくい。森林を例に取れば、それがうまく説明できるはずで、是非山側から山の言葉で発信していただきたい。

西村敏彦（九州森林ネットワーク理事）



山林見学

えに実は最も革新的な面をもっているのだということを知り認識させられました。

柿澤宏昭（北海道大）

森林フォーラムに参加し、そのあとも引き続き諸塚の各地を見せていただきました。本当に得るものが多い滞在でした。わたしがこれまで見てきた山村に対して、諸塚の元気さには衝撃を受けました。山村や林業の関係者にお話を伺うと、だいたいどこでも最後は愚痴になります。諸塚では、ほとんど愚痴らしきものを聞きませんでした。これは本当にすごいことだと思います。どうしてこうなのか、もう一度よく考えてみたいと思っています。

土屋俊幸（東京農工大学）

先週、札幌で開催された日本森林学会に参加しました。雪が残り寒い札幌でしたが、「日本林業再生のモーメント」を探るとして熱い議論がありました。

特に、次のような林野庁からの参加者の発言を巡って反対意見が出されました(コレステロールに次いで、例えの話して恐縮ですが…)。

「現在の日本の木材利用は、銀座の高級寿司店と低価格追求の回転寿司に二分されつつある。それぞれに対応した施策を考えている」と。

これに対して、「今必要なのは、各駅前で気軽に入れるが、本物の(深海魚を鯛と偽って売るのはなく)ネタを職人さんがにぎったおいしい寿司を提供できる寿司屋だ。そこが減少していることこそが問題なのだ」と反論がありました。

…やはりどの辺りをターゲットにするのか、戦略が必要だと思います。

(佐藤／福岡)

木材とお寿司屋さん

木材を寿司ネタに例えてあるのが面白いですね。私の住んでいる大村市でも、100円均一の回転寿司屋は連日おおはやりですが、その店からちょっと離れた、皿の色で値段をわけてある回転寿司やさんは、あまりぱっとしないんです。

要は、消費者へのわかりやすさの差ではないかと思います。国産材を使った家は高いとされているところがネックなのかもしれません。

はやる店とはやらない店

ただ、実際のところはどうなのでしょう。

(岩本／長崎)

ディスカウント店が行き詰まる一方で、100円ショップが大流行、大手コンビニにまで100円コーナーをつくっています。お寿司屋さんも回転寿司が安い寿司の代名詞だったのが、いつの間にかどのネタも100円／皿の信じられない店ができています。

岩本さんのご意見のとおりで、解りやすさの強みでしょうね。

ディスカウント店は、大量に作って大量に安く売りさばく高度成長期の中身そのまま、金額だけが一人歩きして物の質やその情報が置き去りにされています。一方100円ショップは、安売りではなく、100円を固定し、質を変化させることで値段を問題外にしている。逆に「どんなものでも100円で提供する」いや「100円にしよう。」という店のコンセプトが解りやすい。その本質は、本物を売ることではないのですが、善し悪しはともかく、正直店の中を見て回るのが楽しい。

子供の頃の雑貨屋さん連れて行ってもらった

時のときめき、80年代(学生時代)にコンビニが出来始めた頃に、店の中を見て回って金もないのに意外なものを見つけると買ってみたことetc…。つまらないことかもしれませんが、心に響く部分というのは大事な気がします。某チェーン店のD社も、安いというより、宝捜し的な要素が受けて一時流行ってましたね。

国産材はどうなのか…。改めて問うて見ると、「本物を」というだけではユーザーに声が届かなくなっているのかもしれない。家を建てる側の気持ちになって考える解りやすさが大事なのでしょうか。

木の家づくりの中に楽しさを見つけ出し、みんなが協力して技術と素材と情報を提供する努力がある。九州森林フォーラムの「九州の家のつくり方・結び方」で議論できれば良いですね。

(諸塚／矢房)

楽しい木の家づくりを!

西村敏彦理事のWeb「エコハウス・もりの家」 <http://www.morino-ie.com/index.htm>

コラム「ほらふきドンドン」から

～QFNが主催した小学生向けの環境教育セミナーについてのコラムです。(原文のまま)

西村は大勢の人前で話をするのは得意ではありません。みんなに伝えたいこと、話したいことがいっぱい、話はいつもアチコチに飛んでしまいます。その上、西村特有の言い回しや言葉づかいがあって、西村の話し方に慣れてないと、大人でも、わかりづらいだろうなと思います。

そんな西村が小学校5年生の子供たちに話をする機会を得て、授業を行ないました。授業の後に、西村に感想を聞かれた私は「子供たちにはムズカシクかも、分りづらかったかも」と答えています。西村はかなりへこんでしまいました。

数日たって、子供たちから手紙を受け取りました。その手紙を読んで、少なくともその子供たちには、西村が伝えたかったことが伝わっていることが分りました。そして、何より西村の一生懸命に伝えようとしている姿をきちんと受け止めてくれていることがわかりました。西村も私もうれしくて、正直にいうと、ちょっと“感動”していました。

元気をくれた子供たちに「ありがとう」という返事の手紙を書かないといけないと思いつつ、西村は西村なりに「ありがとう」だけではない、手紙を書きたいという気持ちもあって、時間がたっていました。

<前略二日市小学校の子供たち、お元気ですか>

林業に関するセミナーから、おおよそ1年くらい過ぎましたが、すこやかにいらしていることと思います。林業に関するセミナーは、5年生の社会の教科書から「林業」の項目が消えたという話を聞いて、山と町をつないで近くの山の木で、たくさんのお家の家をつくらうという活動をやっている仲間と「じゃ、直接5年生に山の事、森の事、木の事、家の事の話しよう」ということになり、このセミナーを始めました。

二日市小学校のセミナーは私にとって2度目です。私は議論好きで、オシャレなので、ぶっつけ本番でなんとかなるさ」と思っていたのですが、おとなの前で話をするのと勝手がちがいで、1度目のセミナーの時は、シドロモドロでどうにも不格好な事となりました。だから、2度目の時は、言葉がムズカシクても、話がややこしくても、言いたいことだけ言い切ってしまうおうと思ったのです。

筑後川の川の水が久留米市の筑後大堰という所で分水され、みんなの住む福岡都市圏へ導かれてい

街の中に森を創る家づくり「もりの家」やシックハウスのこと、そしてオープンハウスなど情報満載です。是非覗いてみてください！

ます。山の上に降った雨は土の中にしみ込み、森の木は根から水を吸い上げ、空気中の二酸化炭素を自分の体内にため、空気をきれいします。土の中に入った水は土中に深く入り込み、浄化され、せせらぎから谷になり川になっていきます。きれいな水は森の木がきちんと整備されていないと、山からでてきません。筑後川ということ考えた時、一番最後で水を飲むみんなが一番上流で森を守る人たちとはつながっているのだという話をしました。

前に述べたことは「環境保全」といいますが、私たちは「環境保全」に重要な森林を守るため、「近くの山の木で家をつくる運動」を提唱しています。この運動は、川上と川下、産地と消費地の人たちを結んで、地元の木で家をつくるという活動です。そのことで、山に目を向けて、森林を知り、木の良さを知ることになります。町にみんなも山で営々と森を守ってきた人たちの心を知り、みんなの共通財産である森をみんなで守っていくという運動です。

私たちは人間性の喪失と環境の破壊をもたらした大量生産・大量消費・大量廃棄のいわゆる経済優先の社会から、環境に配慮した社会システムをつくりかえねばならないと考えています。そんな社会を「循環型社会」と呼びますが、たとえば、山中に降った雨が谷を流れ、川となり、海に還ってゆき、蒸発して雲となり、又雨となってゆく姿に似ています。ここで「つながり」が大切になってきます。森が木を生産する場だけではなく「環境保全」に寄与するフィールドだと知った町の人たちと森を守る人たちが手をつなぐことにより、近くの山の木で家をつくるのが環境保全につながると理解すれば、木の家づくりがさかんになってゆきます。このような町の人たちと森を守る人たちの関係を「顔の見える関係」といいます。顔も見えない関係をつなげてゆくことで、キチンとしたモノが出来るようになってゆきます。この「つながり」が川つながり・山つながりとなって九州中につながっていったらうれしいなあと思っています。

卒業まであとわずかです。残された日々をゆっくり友達と過ごして欲しいです。友達との「つながり」を確認してください。 草々 西村敏彦

九州森林ネットワークのBlog

NPO九州森林ネットワークでは、「山と緑の最新情報」としてBlogを運営しています。環境教育、緑の雇用、Uターン、ワーキングホリデー、山のつばやき、自然派住宅、室内環境etc…。九州の山と街のリアルタイムの情報が満載です。是非ご覧ください。

News

森の番人が提供する家づくりネットワーク

やつしろ木夢(コム)ネット

平成17年2月10日に八代地域材の有効利用と住宅相談の窓口を目的に「やつしろ木夢ネット」を設立いたしました。

この会は、八代森林組合、熊本県森林組合連合会八代事業所、工務店、製材所、建築設計士等の正会員と個人の賛助会員で構成され、八代地域で育った木材を利用することによって、八代の気候風土に合った丈夫で長持ちする家ができるだけでなく、森林の水資源かん養など多面的機能の維持にも役立てると考えています。

地元の山から建築現場までの流れを建主に見てもらい名産のい草を使用するなど、愛着をもって安心して暮らせる家を「木夢ネット」では提供します。

イベントでは山に入って、伐採現場の見学や植林、下刈り、間伐等の体験をしていただきます。また、丸太から柱や梁を生産する製材工場の見学や住宅見学も計画しています。その他にも建築説明会やセミナー等も開催していこうと考えています。

このようなイベントを通じて会員と参加者との意見交換等を行い交流を深め、木材に対する知識、住宅に対する知識を深めるためのいろいろな情報を提供できることを願っています。

地域の財産は — 地産力で創る

素生の良い木を育て、適材適所に家を組む良質な木造住宅を、緑の消費者に地場産材直達で提供する理想の家造りネットワーク「やつしろ木夢ネット」。これまでの関連事業社個々の活動実績を踏まえ、集結し、リンクすることで、圏域の住まい手と共に、真に豊かな生活を実現できる環境を整えることにあります。

共に創ろうを合言葉に交流と学習を重ね合い、資産価値の高い長寿命の家を、自然環境へ配慮し、ネットワークとしての循環を活かしながら、地域の賛同を得られるよう推進して参ります。

やつしろ木夢ネット会員 井本工務店／井本 一治



第14回 きやどん体験ツアー

8月中旬開催予定

●1泊2日の林業体験ツアー

●内容：下刈り・網代編み・溪流釣り

林業のプロや森林インストラクターと一緒に「山の勉強会」や山の知恵袋会を行います。

●参加費：大人8千円 子供6千円

(宿泊費、食事4回、保険代を含みます。)

●申込み・問合せ先 (株)トライ・ウッド担当:丸山

<http://www.try-wood.com> info@try-wood.com

Tel0973-55-2656



今年の山は、野いちごが豊作でした！

九州森林ネットワークオフィス一覧

- <本部>大分・上津江 (株)トライ・ウッド内 TEL0973-55-2657 0973-55-2323
〒877-0311 大分県日田市上津江町大字川原2810-1 trywood@fat.coara.or.jp
- <サテライトオフィス>
福岡(理事長)：佐藤宣子 九州大学大学院農学研究院内 TEL092-642-2876 092-642-2877
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 sato@ffp.kyusyu-u.ac.jp"
- 熊本・小国町森林組合内 TEL0967-46-2411 0967-46-5474
〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原1802 oguni@galaxy.ocn.ne.jp
- 宮崎・諸塚村産直住宅推進室事務局内 TEL0982-65-0178 0982-65-0189
〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068 ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp
- 福岡・久留米：西村敏彦 西村工務店 TEL0943-72-2256 0943-72-3996
〒839-1234 福岡県久留米市田主丸町豊城585 info@morino-ie.com
- 鹿児島：村田義弘 自然木 TEL099-812-5701 099-812-5701
〒892-0023 鹿児島市永吉町2-29-3 jinenmoku@nifty.com
- 長崎・大村：岩本清彦 (有)公方建設 TEL0957-53-1142 0957-53-9532
〒856-0048 長崎県大村市赤佐古103-4 iwamo@kubou.com/
- 沖縄：小渡勝也 (株)幸和 TEL098-936-9231 098-936-2667
〒904-0102 沖縄県中頭郡北谷町字伊平417-1 odo@tokukei.com
- 福岡市 川崎建築構造設計事務所内 TEL092-574-8544 092-574-8545
〒811-1303 福岡市南区折立町3-7-206 kawa2892@joho-fukuoka.or.jp
- 北九州市：(有)ウッデイ工房内 TEL093-692-5430 093-692-1975
〒807-0875 北九州市八幡西区浅川台1丁目5番 k-shimasaki@woody-koubou.com
- 大分市：三浦逸朗 ミウラクワノパートナーシップ(有) / プラス・エコ TEL097-504-3087 097-504-3088
〒870-0901大分市西新町1-3-5サンビル1階 RXA04312@nifty.ne.jp
- 北九州市：(株)安成工務店内北九州支店 TEL093-475-2323 093-475-2335
〒800-0226 北九州市小倉南区田原新町2丁目4番1号 kitakyusyu@yasunari.co.jp
- 熊本・八代：球磨川ライン木の家ネット TEL0965-35-8430 0965-35-8431
〒866-0081 八代市植柳上町683-5 (株) [井本工務店内imotokmt@vesta.ocn.ne.jp](mailto:imotokmt@vesta.ocn.ne.jp)
- 佐賀：三原ユキ江 (株)三原建築設計事務所内 TEL0952-22-0051 0952-22-0054
〒840-0041 佐賀市城内1-10-30 mh_yukie@hotmail.com



事務局から会員募集および更新のお知らせ

本年度は、NPO設立初年度にも関わらず多くの方が会に入会頂き、本当にありがとうございました。

何もかも初めてのため、連絡やニュースレター等の配付が遅くなったり、不手際があったりと、会員や理事の皆様に迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。

来年度は今年度の反省を生かして、情報発信を活発にしていきます。会員の有効期限が9月30日で終了しますが、来年度も引き続きご入会下さるようお願い申し上げます

(株)トライ・ウッド TEL 0973-55-2656 担当:丸山

★第4回森林フォーラム in 長崎 開催決定!★



■開催日：平成17年10月28日（金）～29日（土）

■会場：長崎市長崎市風頭町2-1「矢太楼」

■テーマ：「九州の家のつくり方・結び方」

九州の地域材を使った家づくりの方法、問題点、木材の生産者、利用者の抱える問題等自由に討論し、今後の九州の家づくりをどのように進めていくべきか、その造り方、山と町の結び方を探ります。

基調講演として、四国で地域材の家づくりを実践されている木と家の会に、新しい家づくりの提案をしていただきます。

■基調講演 戸塚元雄（香川県・木と家の会代表）

「地域材の家のつくり方・結び方～提案型の家づくりについて～」

■スケジュール：

10月28日（金） 15：00～ 新コンセプト住宅ComHouse見学会（大村市）

17：00～ 「矢太楼」受付

18：00～ 九州各地の会員の意見交換会

10月29日（土） 10：00～ NPO法人九州森林ネットワーク総会

10：40～ 九州森林フォーラム開会

10：50～ 基調講演 戸塚 元雄

12：00～ 昼食

13：00～ 事例報告（小国町、長崎県、鹿児島県、北九州市）

14：00～ 徹底討論「九州の家のつくりかた・結び方」

■宿泊：「矢太楼」

■参加費：会員無料 会員以外1,000円

※別途28日懇親会費4,500円（予定）



気になる情報・木になる情報

◆4月28日「京都議定書目標達成計画」閣議決定

今年2月に発効された京都議定書では、日本に2012年までに1990年比で6%の温室効果ガス削減を義務付けています。しかし、すでに現在までにさらに排出量は増えてしまっているので、合わせて14%の削減が求められているのです。

特にその削減目標のうちの半分以上を国内の森林のCO2吸収量でまかなおうというのが計画です。実現可能なのでしょうか。この議論はまたの機会に...

◆H16年林業労働者の若年者の割合が増加

厚生労働省が昨年秋に実施した統計調査で、各事業所で雇用されている林業労働者の年齢分布を見ると、40歳未満の割合が5年前（平成11年）の13.9%から22.9%に上昇しています。しかし60歳以上の割合が36.1%という数値は高止まりのままで、10年後だれが山を維持していくのか厳しい状況です。

